

公益財団法人軽井沢美術文化学院

2020 年度事業報告書

I. 美術館の運営

「個性の開花II ポスト伊作世代～昭和から平成の文化学院で学んだ人々」をテーマとし
6月7日よりの開館を予定していたが、新型コロナの影響により開館を7月2日に延期し
体温の検査、手の消毒、代表者の連絡先の登録など、対策を徹底した上で開館を行った。

企画展

予定通り平成の文化学院で学び、自由と美を重んじるスピリットで教育を受け個性を開花させた表現活動をする下記の人たちの作品の展示を行った。

いづみけん（金工）	矢澤珠美（ライブペインター）	上野秀一（絵画）
広瀬ひかり（銅版画）	森田高正（陶芸家）	佐々木一聡（イラストレーター）
柿沼宏樹（画家）	志賀暁吉（陶芸家）	小杉るい（作家）
小林智（画家）	和田的（陶芸家）	小杉周水（ミュージシャン）
川内理香子（画家）	中島たい子（小説家）	浅沼ゆう子（漆芸家）
栗原由行（デザイン）	笹公人（歌人）	村岡良子（能面師）

入館者は新型コロナの影響により 1394 名で前年度の 1916 名より 522 名の減少、売り上げも 991 千円
と前期の 2,100 千円から大幅な減少となった。

美術館でのイベント

- ◇ ローズフェスティバルは7月2日(木)～7月5日(日)と短期間ではあったが開催した。
- ◇ 秋のアートフェスティバルは10月11日に開催し、入館料は無料、子供達にはスケッチブックを配り、作品をカフェに展示した。
- ◇ ルヴァン美術館夏のコンサート

5回のコンサートを予定していたが、全て中止せざるを得なかった。

アトリエ ルヴァン (Atelier Le Vent) の運営

アトリエのワークショップには新しいリピーターが増えてきていたが、やはり新型コロナの影響で多くのイベントを中止し、8月に子供向けの木工教室のみを行った。

II. 宿泊施設の運営

美術館付属の宿泊設備はイベント講師や美術館のコンサート演者、および美術館訪問の一般の方の宿泊設備として運営しているが、今年度はイベントがなかったため、宿泊の売り上げも低調であった。

アトリエ、宿泊の売り上げ合計は約 150 千円にとどまった。(去年は 558 千円)

ショップ・カフェの運営

本年度はレジの入れ替えを行った。今まで紙ベース、Fax で報告されていたショップ、カフェの売り上げが、ネット経由で報告されるようになり、事務処理時間が大幅に短縮された。

スタッフの人員効率をあげるため、引き続き美術館受付、ショップ、カフェへのスタッフの配置、シフト計画を東京事務所で行った。

1. ショップ

来館者の減少に伴い売り上げは低調で 922 千円あったが、今回の展示テーマである若手文化学院卒業生たちの作品および書籍が数点(合計約 4 万円程度)販売された。またコロナのため、商品としては人気を集め手作りマスクが 61 枚(約 54,000 円)販売された。

2. カフェ

本年より新しいシェフの下で運営が始まり従来までの売り上げの伸びが続くか懸念材料であったが、料理は大変人気を集め、コロナ下でのオープンなテラスの環境もあり、3,763 千円と昨年度の 370 万円を若

干ではあるが上回る売り上げを達成した。

III. その他

1. 他の団体への寄付

国定重要文化財の指定をうけた新宮市の西村記念館の修復作業は 2019 年末に終了、2020 年春にリニューアルオープンされた。西村伊作が建築した旧チャップマン邸も記念館に先立ち 2019 年春に修復を終え市の多目的施設として活用されている。両館については引き続き維持、保全のための寄付を 20 万円行った。

2. 立ち入り検査について

3 年に 1 度の長野県監督官庁からの立ち入り検査はルヴァン美術館で 10 月 14 日に行われ、4 点の指摘をうけた。すぐ対処可能な事項 2 点是对応済み、手続きが必要なものは下記 2 点である。

- ① 貸借対照表を電子掲示することを定款に定める。

現在 URL で公表しているが定款では書面を掲示することになっているので、6 月の定例評議委員会で定款変更を決議する

- ② 資産取得資金に係る規定を整備する。

資産取得資金としては、減価償却引当金（美術館、カフェ、ショップ）とすでに取り崩し使用済みとなったアトリエ建設費であり、運用は認定法の施行規則に従って行っているが、財団内の規程として明文化することを求められたもの。規定をすでに理事会での書面決議で制定した。

以上

。